

年間第17主日の説教

金 大烈 神父 2011年7月24日(日)

《神様とのインタビュー ～神様が人間に驚くこと、教えてくださること～》

今日の福音(マタイ 13:44 - 52)のメッセージは簡単です。

「あなたは、^{とこしえ}永久の命のために今まで何を売り、何を支払って来たのか。何を諦め、どんな気持で生きて来たのか。」という質問です。

よく考えてみると、これは怖い話です。「今までいろいろなことをしてきたけれど、永遠の命、変わらない命、死なない命、その準備のために何をしてきたのか。それを得るために何を支払ったのか。」もっと易しく言えば、「神様のために、私は何をして来たのか。自分のことばかり考えて今まで生きてきたのではないか。」ということになります。怖い話です。皆様はどうですか。神様のために何をしましたか。神様を喜ばせることで、何か記憶に残るものがありますか。自信がないではありませんか。

「今まで願うことばかりだったけれど、私は神様に何を返したのか。」と考えてみると、私たちの生き方が少し変わるのではないかと思います。

ミサの前に本を読んでいて、面白い文章を見つけました。その文章を皆様と分かち合おうと日本語に訳してみましたので、ゆっくり読んでみます。

私たちがどのくらい愚かさに囲まれて生きているかを簡単な言葉で示した文章です。きっと皆様にとって、意味のある内容になると思います。

神様とのインタビュー

神様にインタビューする夢を見た。

神様がお聞きになった。

「う～ん、私にインタビューしたいって？」

「はい、お時間が許されれば。」

と答えた。

神様は微笑まれた。

「私の時間はとこしえである。何を聞きたいのか？」

「人間の何があなた様を一番驚かせるのでしょうか？」

神様が答えられた。

「幼い頃は、退屈だと騒ぎ立て、焦りながらおとなになりたがること。そしておとなになったら、もう一度子どもの時に帰りたがること。」

お金を稼ぐために健康を失ってから、失った健康を取り戻すために儲けたお金を全部使ってしまうこと。

未来だけに執着して現在を忘れてしまい、結局、現在にも未来にも生きられないこと。

まるで決して永遠に死なないかのように生きながら、遂に一日も生きたことのない存在のように無意味に死んで行くこと。

等である。」

神様は、私の手を握られた。そしてしばらく何もおっしゃらなかった。

それで私が伺った。

「私たちの親として、あなた様の子ども達におっしゃる教えにはどうということがございますか？」

「強制的に人々があなたを愛するようにさせるのは出来ないことだ。だから、ひたすら自ら愛される存在になることしかないのを習わなくてはいけない。

他人と自分を比較するのは良いことではない。

赦しながら赦される方法を習いなさい。

愛する者に傷をつけるにはただ何秒もかからないが、その傷を癒すためには何年もかかる事実を覚えなさい。

一番多く持っている人が裕福な人ではなく、これ以上必要なものがないという人が真の裕福な人であることを習いなさい。

人々は本当に愛を感じながらも、どの様にその愛を表現するかについて、そして、自分の感情をどの様に表せるかについてまだ知らないことを分かりなさい。

二人が同じものを見ていても、それを互いに異なる方法で見える事もできるのを覚えなさい。

互いに赦し合うことでは足りないことだ。あなた方は自分自身を赦さなくてははいけないことを習いなさい。」

「お時間を割いていただきありがとうございました。また、それ以外に教えてくださることはございませんか？」

とうやうやしく伺った。

神様は微笑まれた。そしてお話しになった。

「私がここにいるのを忘れてはいけない。いつまでも・・・。」